らに、少量の水で洗い込む。その後、クロロホルム30mL、25mL、20mL、15mL、10mL及び10mLで順次ビーカーを洗った後、順次抽出し、全クロロホルム抽出液を合わせ、水10mLで洗い、クロロホルム層を脱脂綿を用いてろ過する。クロロホルム10mLで水層及び脱脂綿を洗い、ろ液及び洗液を合わせ、水浴上で蒸発乾固し、105℃で２時間乾燥し、放冷した後、質量を量り、ヘキサアセチルイノシトール（$C_{18}H_{24}O_{12}$）の量とする。

イノシトール（$C_6H_{12}O_6$）の量（mg）
＝ヘキサアセチルイノシトール（$C_{18}H_{24}O_{12}$）の量（mg）×0.4167

㈑　保存の方法の基準
密閉容器に保存すること。

イ　製剤（その１）

㈐　成分規格
イノシトール製造用原体の成分規格を準用する。

㈑　保存の方法の基準
イノシトール製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

ウ　製剤（その２）

㈐　成分規格
本品は、イノシトール製造用原体に、賦形物質を混和した粉末である。
含量　本品は、定量するとき、表示量の90～110％に相当するイノシトール（$C_6H_{12}O_6$）を含む。
確認試験
①　本品の表示量に従い、イノシトール製造用原体１gを含む量を量り、水50mLを加え、よく振り混ぜた後、ろ過する。ろ液につき、イノシトール製造用原体の確認試験①を準用する。
②　本品の表示量に従い、イノシトール製造用原体１gを含む量を量り、水100mLを加え、よく振り混ぜた後、ろ過する。ろ液につき、イノシトール製造用原体の確認試験②を準用する。
③　定量法で得たヘキサアセチルイノシトールの融点は、212～216℃である。
定量法　本品の表示量に従い、イノシトール（$C_6H_{12}O_6$）約1.0gを含む量を有効数字３桁まで量り、その数字を記録し、水60mLを加え、よく振り混ぜた後、ろ過する。ろ紙上の残留物を水15mLずつで２回洗い、ろ液及び洗液を合わせ、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとする。この溶液20mLを全量ピペットを用いて量り、250mLのビーカーに入れ、水浴上で蒸発乾固した後、105℃で１時間乾燥する。放冷した後、以下イノシトール製造用原体の定量法を準用する。
イノシトール（$C_6H_{12}O_6$）の量（mg）
＝ヘキサアセチルイノシトール（$C_{18}H_{24}O_{12}$）の量（mg）×0.4167

㈑　保存の方法の基準
イノシトール製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

⑶⓪　エルゴカルシフェロール

ア　製造用原体

㈐　成分規格
物理的・化学的性質
①　本品は、白色の結晶で、臭いはない。
②　本品は、エタノール、アセトン、エーテル又はクロロホルムに溶けやすく、脂肪油にやや溶けやすく、水にほとんど溶けない。
③　本品は、空気又は光により変化する。
確認試験
①　本品0.5mg（0.45～0.54mg）にクロロホルム５mLを加えて溶かし、無水酢酸0.3mL及び硫酸0.1mLを加え、振り混ぜるとき、溶液は、赤色を呈し、30秒以内に紫色から青色を経て緑色に変わる。
②　本品0.05g（0.045～0.054g）に無水ピリジン１mLを加えて溶かし、３，５-ジニトロ塩化ベンゾイル0.05g（0.045～0.054g）を無水ピリジン１mLに溶かした溶液を加え、還流用ガラス管を付け、水浴上で10分間加熱する。放冷した後、水５mLを加え、生じた沈殿をろ取し、水洗し、アセトンを溶媒として２回再結晶し、デシケーター（減圧，シリカゲル）で２時間乾燥するとき、その融点は、147～149℃である。
純度試験
①　吸光度　本品0.01gを0.0001gの桁まで量り、その数値を記録し、エタノールに溶かし、1,000mLとし、この溶液につき、波長265nmで吸光度を測定するとき、$E^{1\%}_{1cm}$＝445～485でなければならない。
②　比旋光度　本品0.3gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、30分以内にエタノールに溶かし、20mLとし、この溶液につき、30分以内に旋光度を測定するとき、$[\alpha]^{20}_{D}$＝＋102～＋107°でなければならない。
③　融点　本品を毛細管に入れ、デシケーター（減圧，2.67kPa以下）で３時間乾燥した後、毛細管を、30秒以内に融封し、予想した融点の約10℃下の温度に加熱した浴中に入れ、１分間に３℃上昇するように加熱するとき、その融点は、115～118℃でなければならない。
④　エルゴステロール　本品0.010g（0.0095～0.0104g）に無水エタノール（９→10）2.0mLを加えて溶かし、ジギトニン0.020g（0.0195～0.0204g）を無水エタノール（９→10）2.0mLに溶かした溶液を加え、18時間放置するとき、沈殿を生じてはならない。

㈑　保存の方法の基準
遮光した密封容器に入れ、空気を窒素で置換し、冷所に保存すること。

イ　製剤（その１　液状）

㈐　成分規格
本品は、エルゴカルシフェロール製造用原体に、硬化油、高級飽和脂肪酸、脂肪酸、植物性油脂又は動物性油脂を混和した油液又は水溶性液状物である。
含量　本品は、定量するとき、表示単位の90～130％に相当するエルゴカルシフェロール（$C_{28}H_{44}O$）を含む。
確認試験　ビタミンD粉末製造用原体の確認試験を準用する。
定量法　ビタミンD定量法により試験を行う。

㈑　保存の方法の基準
遮光した気密容器に入れ、ほとんど全満して、又は空気を窒素で置換して保存すること。

ウ　製剤（その２　粉状）

㈐　成分規格
本品は、エルゴカルシフェロール製造用原体に、賦形物質を混和した粉末又は粒子である。
含量　本品は、定量するとき、表示単位の90～130％に相当するエルゴカルシフェロール（$C_{28}H_{44}O$）を含む。
確認試験　ビタミンD粉末製造用原体の確認試験を準用する。
定量法　ビタミンD定量法により試験を行う。

㈑　保存の方法の基準
遮光した密閉容器に保存すること。